

企業ヒアリング・アンケート調査の結果について
～融資先企業の取引金融機関に対する評価～

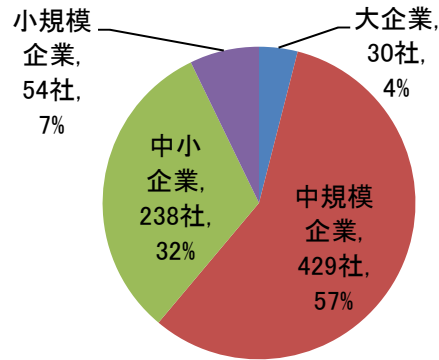
平成28年5月23日

概要

① 対象企業の規模

➤ 「企業ヒアリング」は中規模・中小企業を中心に、751社を実施。「アンケート調査」は企業ヒアリングで捕捉できていない小規模企業2,460社を対象に実施し、全国の企業規模別割合にできる限り近づくよう調整。

企業ヒアリング対象先の割合



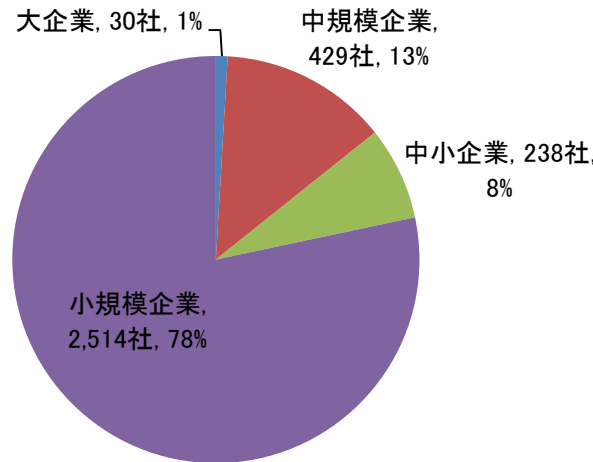
アンケート調査回収数



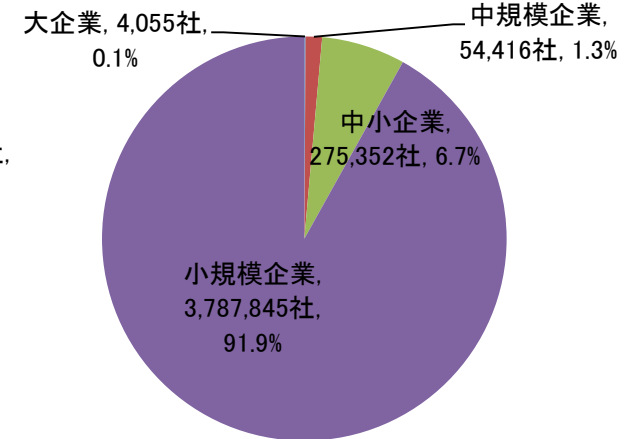
小規模企業: 1人～20人
中小企業: 21人～100人
中規模企業: 101人～1,000人
大企業: 1,001人以上

※中小企業及び小規模企業については、
中小企業基本法の定義を踏まえ設定

企業ヒアリング・アンケート調査の合算割合



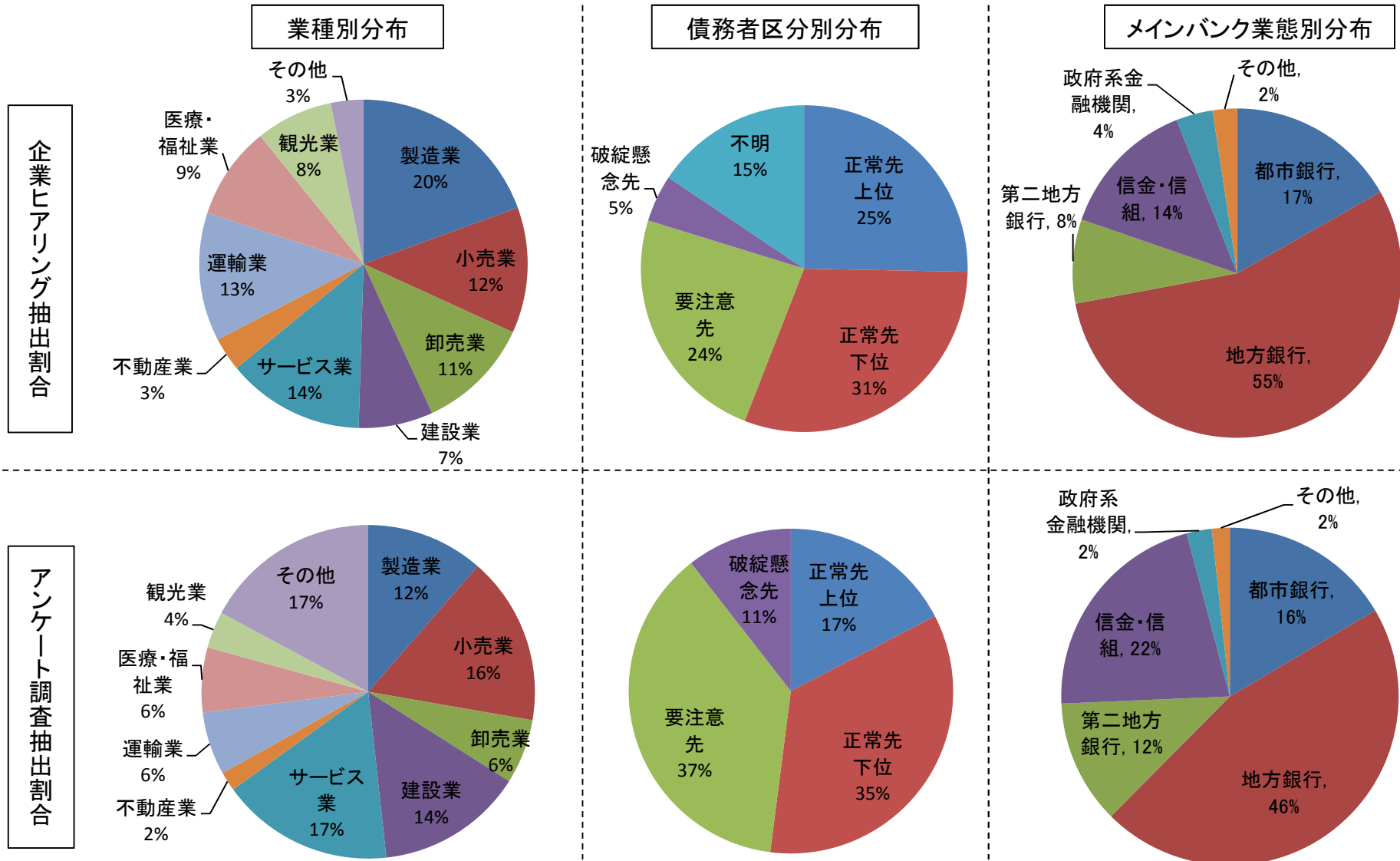
全国の企業の従業員規模別割合 (H24経済センサス)



小規模企業: 1人～19人
中小企業: 20人～99人
中規模企業: 100人～999人
大企業: 1,000人以上

② 業種・債務者区分

➤ 企業ヒアリング及びアンケート調査ともに、業種や債務者区分の分布に偏りはない。



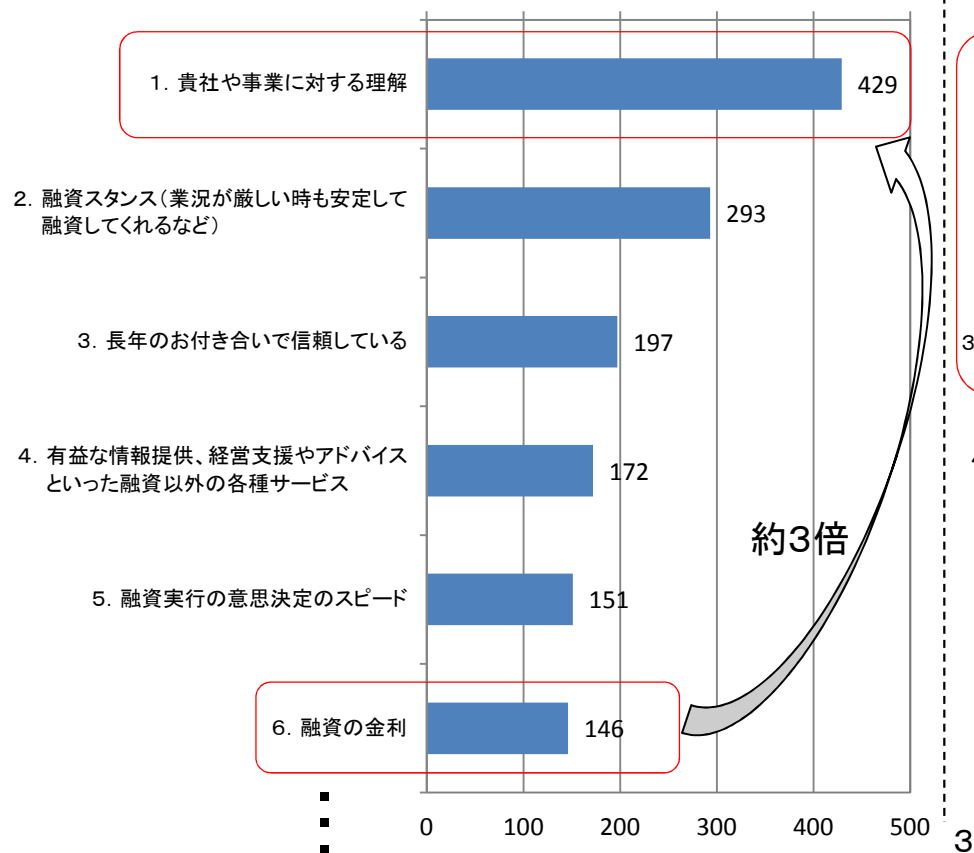
① 企業がメインバンクに求めるもの

- 企業ヒアリングでは、メインバンクの選択理由は「貴社や事業に対する理解」が最も多く、「融資の金利」の約3倍。
- アンケート調査でも同様、「事業に対する理解」が「融資の金利」の約3倍。さらに、アンケート調査では、小規模企業を対象としていることを反映し、「長年の付き合い」や「支店が近くにあるから」といった回答が多く見られる。

Q メインバンクを選択している理由は何ですか(複数回答可)。

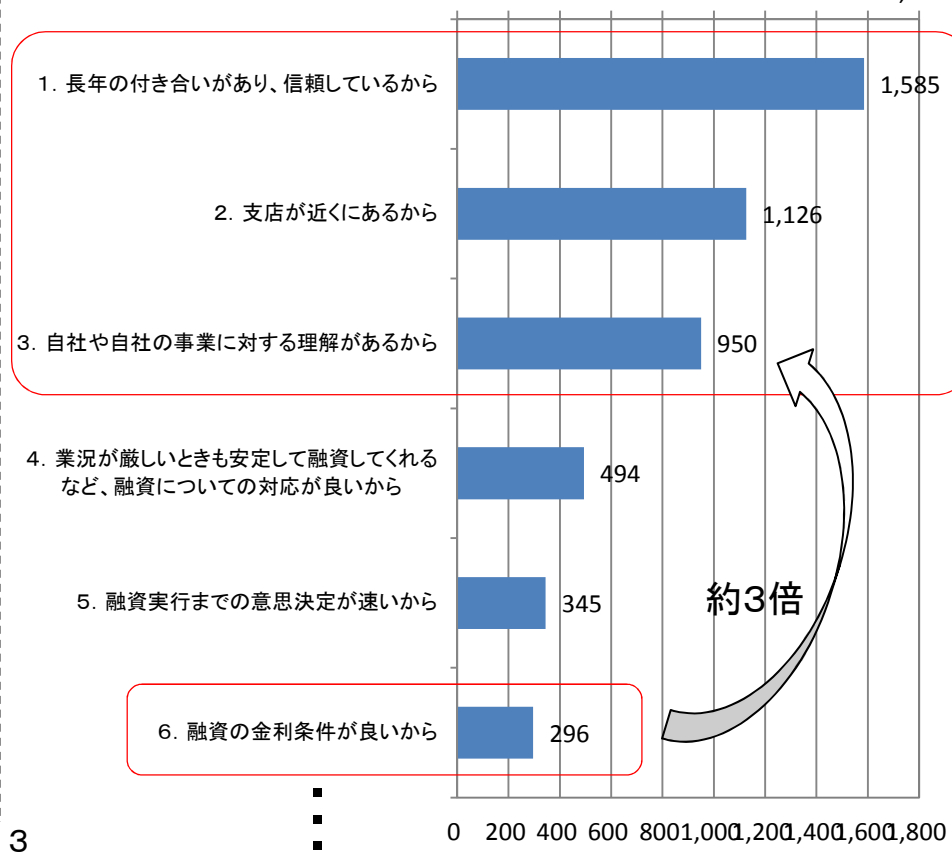
【企業ヒアリング】

N=751



【アンケート調査】

N=2,460

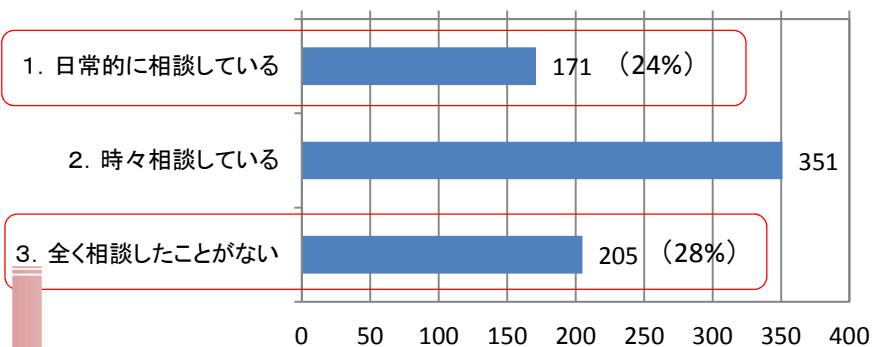


②-1 企業と金融機関の信頼関係

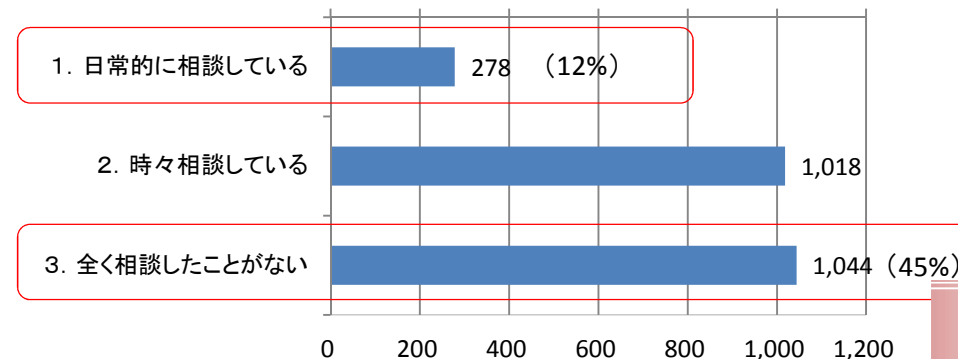
- 企業ヒアリングでは、約3割の企業が「全く相談したことがない」と回答。その理由は、「アドバイスや情報が期待できない」が最多。
- アンケート調査では、「日常的に相談している」の割合が企業ヒアリングと比べて半減する一方、「全く相談したことがない」との回答が最多となった。その理由は、「他に相談相手がいるから」が「アドバイスや情報が期待できない」と同程度の回答数となった。

Q 貴社は、経営上の課題や悩みについて、メインバンクとどの程度、相談していますか。

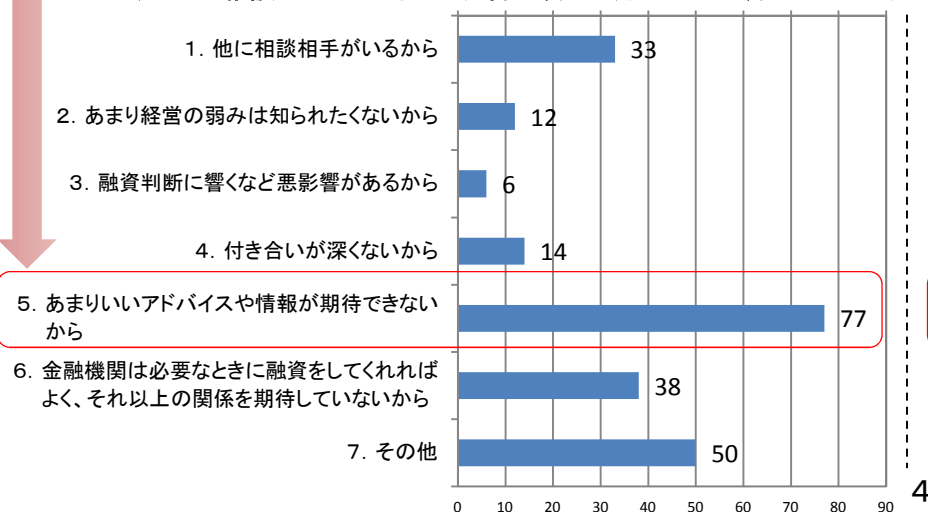
【企業ヒアリング】



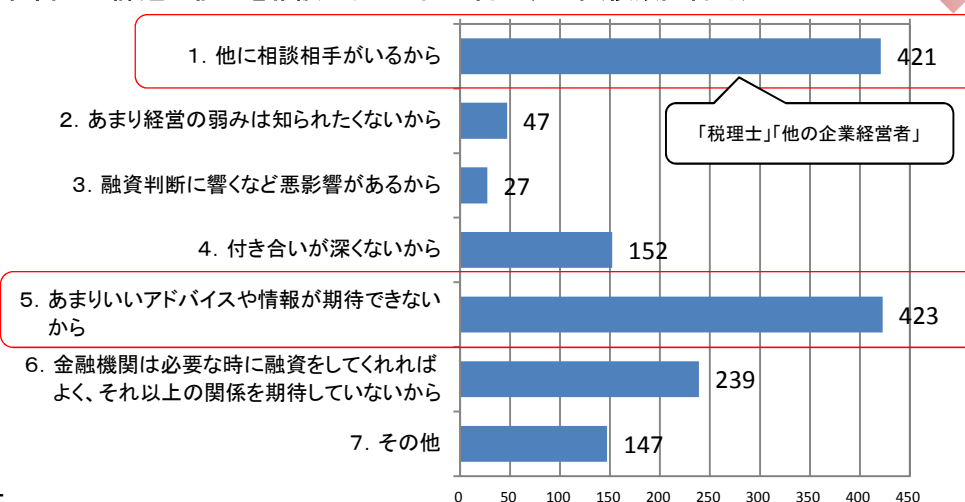
【アンケート調査】



Q (3. 全く相談したことがないとお答え頂いた方について、)メインバンクに経営上の課題や悩みを相談しない理由は何ですか。(複数回答可)

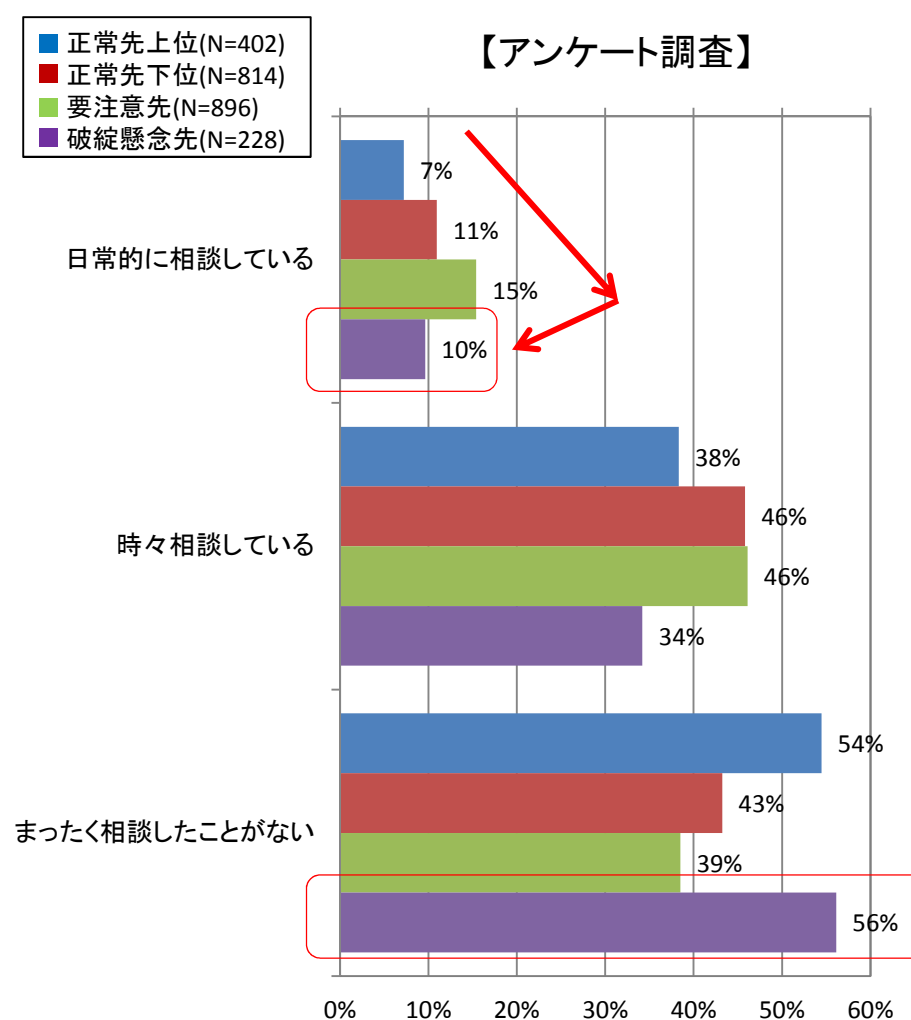
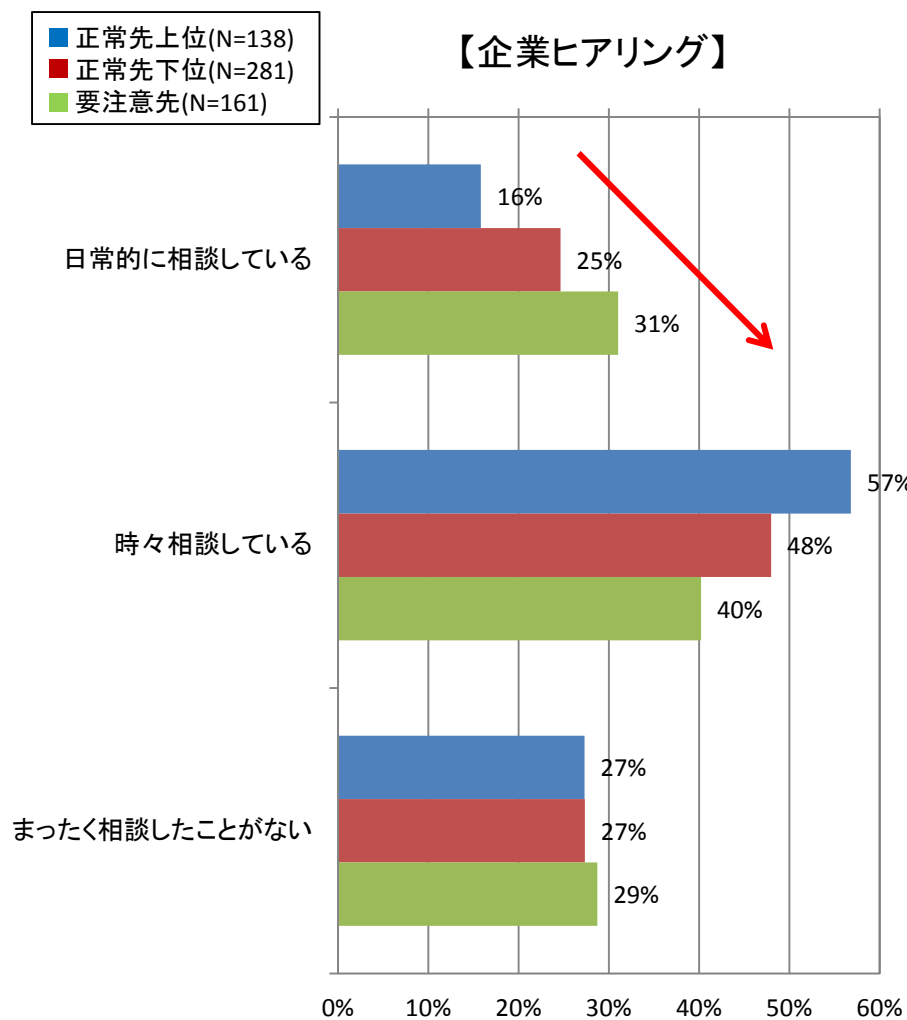


4



②-2 経営上の課題や悩みについての相談状況(債務者区分別)

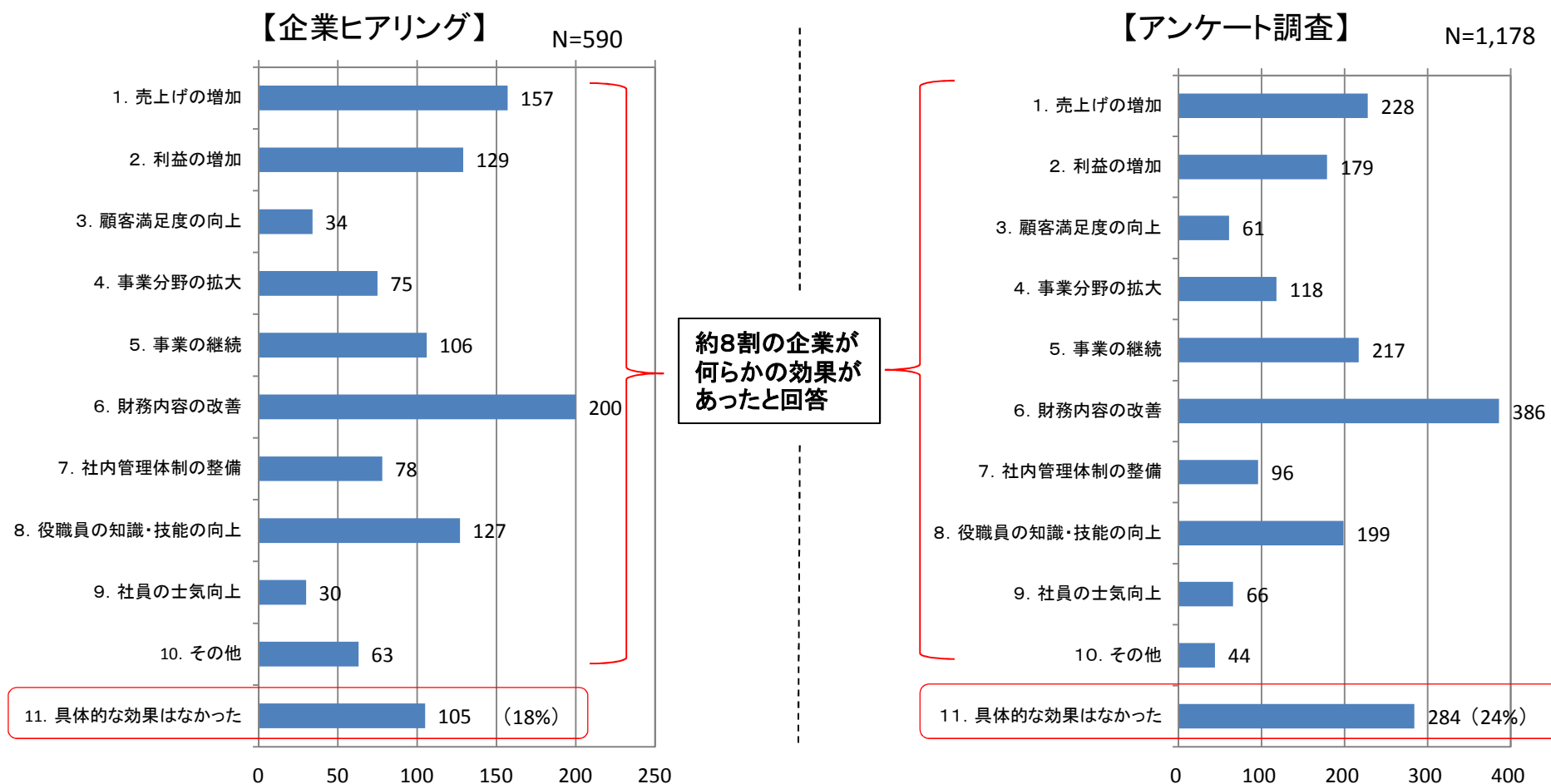
- 経営上の課題や悩みについて、債務者区分が下位ほど、「日常的に相談している」が増加する傾向は同じ。
- アンケート調査で、新たに破綻懸念先について分析したところ、「日常的に相談している」割合は債務者区分の中で最も低く、「まったく相談したことがない」割合が最も高くなった。



②-3 金融機関による経営支援サービスによる貢献度合

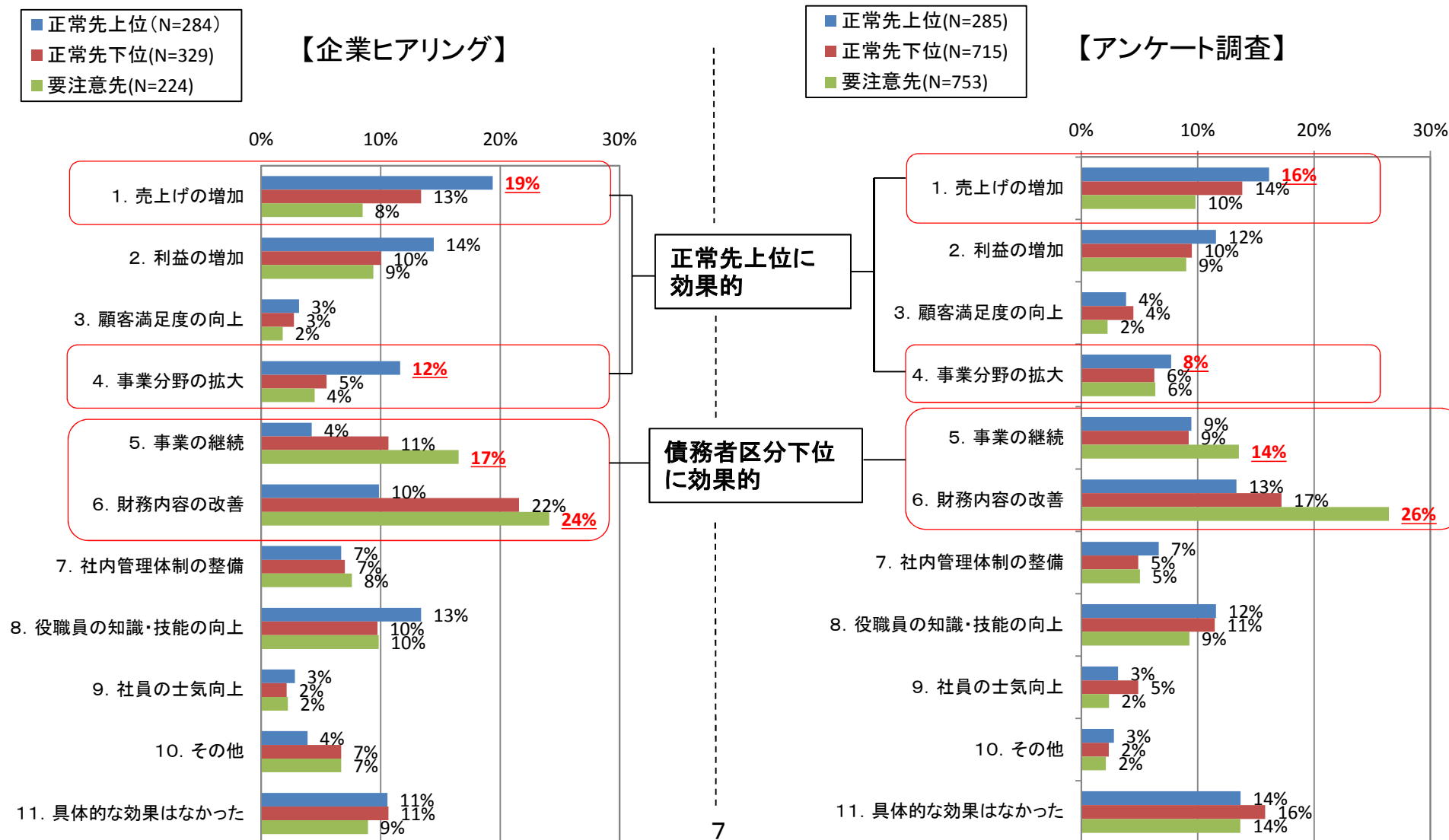
➤ 経営支援サービスについて、メインバンクと相談して支援を受けたことがあると回答した企業(企業ヒアリング:590社、アンケート調査:1,178社)の約8割が、「財務内容の改善」など何らかの効果があつたと回答しており、金融機関によるコンサルティングが有効であることが伺える。

Q 経営支援サービスを受けたことがあると回答した方について、金融機関からの経営支援は、貴社にどのような貢献をしましたか。(複数回答可)。



②-4 金融機関による経営支援サービスによる貢献度合(債務者区分別)

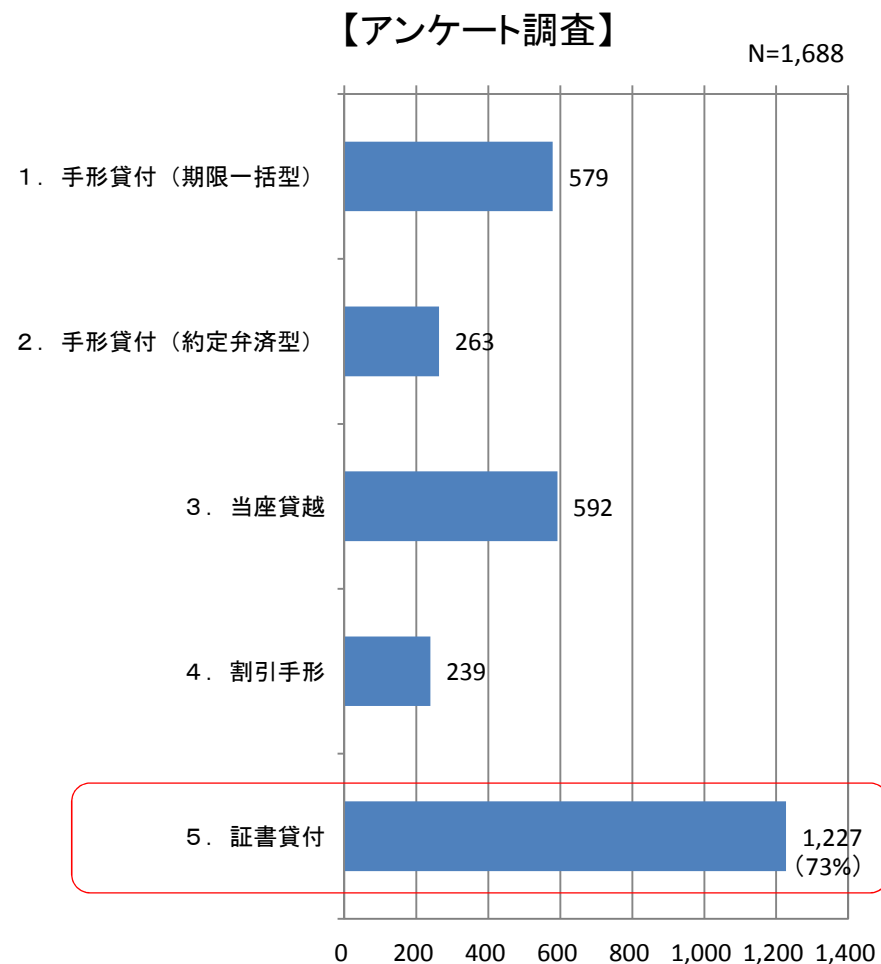
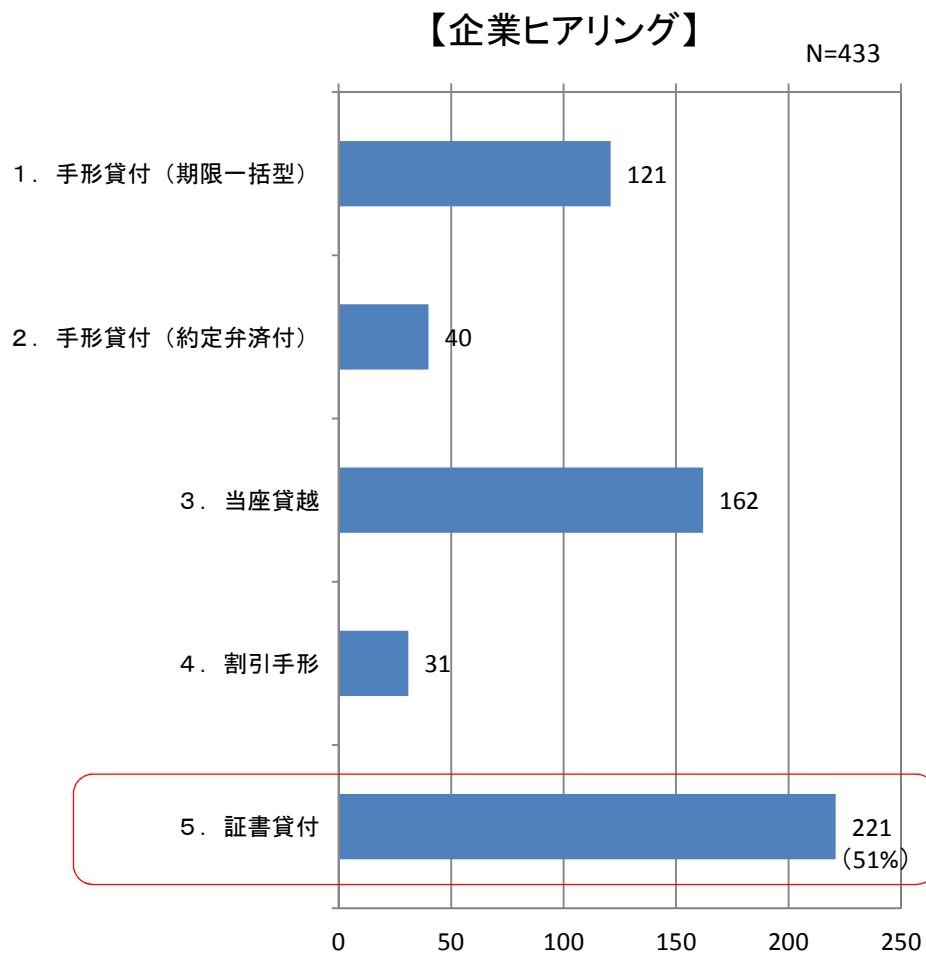
- 正常先上位では「売上げの増加」「事業分野の拡大」等の成長支援に効果があり、債務者区分下位では「財務内容の改善」、「事業の継続」等の経営支援に効果があったと回答。企業の実態に合わせた支援に効果があることが伺える。



③-1 運転資金の借入形態

- 運転資金の借入形態は、企業ヒアリング・アンケート調査いずれにおいても証書貸付が最も多い。
- 特に、アンケート調査では、「証書貸付」の割合の高さが顕著(約7割)。

Q 運転資金はどのような形態で借入を行っていますか。(複数回答可)

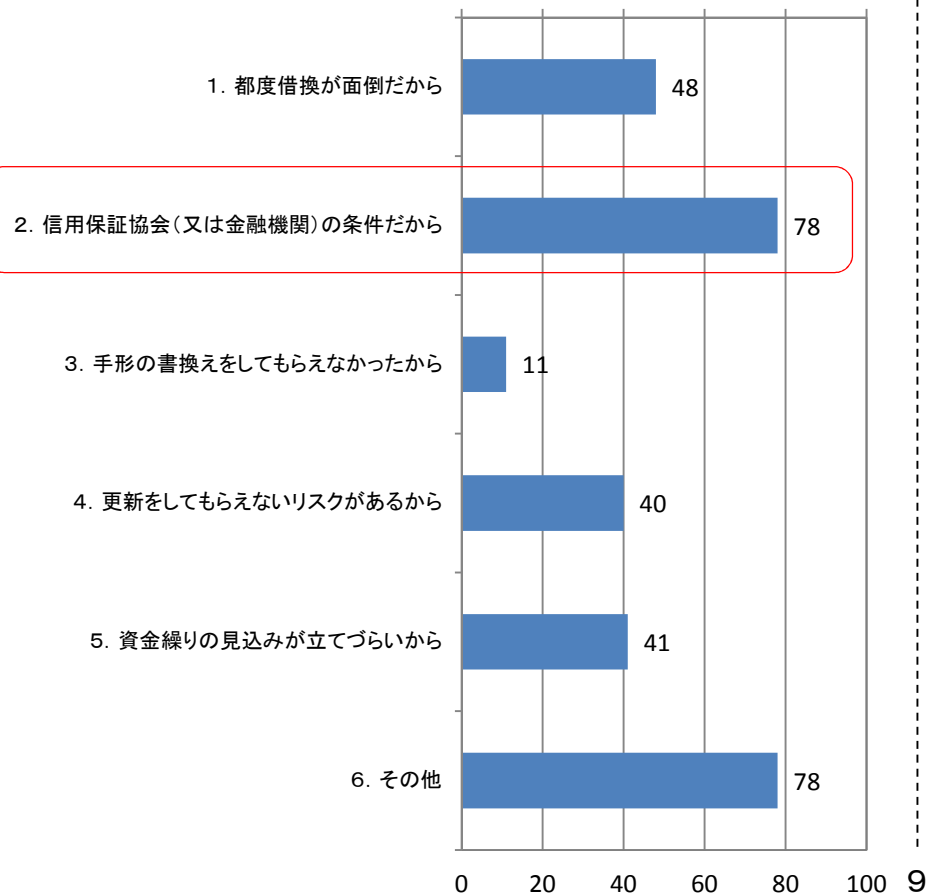


③-2 運転資金の借入形態

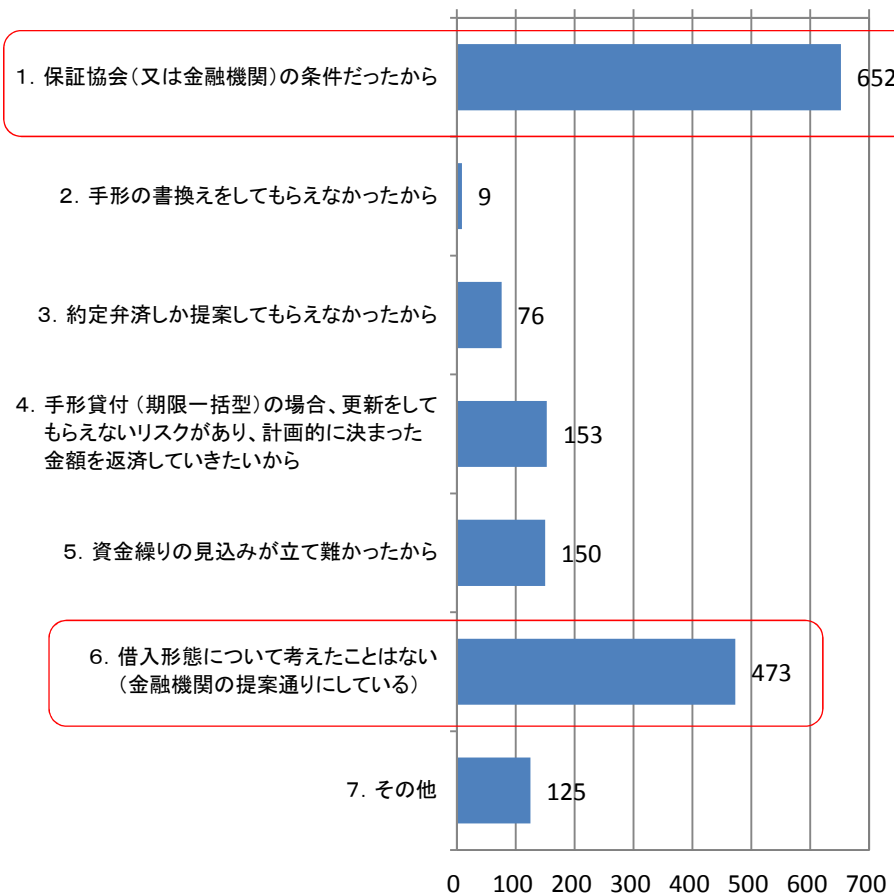
- 手形貸付(約定弁済付)及び証書貸付を選択した理由は、企業ヒアリング・アンケート調査いずれにおいても「信用保証協会(又は金融機関)の条件だから」が多い。
- アンケート調査では、「信用保証協会(又は金融機関)の条件だから」に次いで、「借入形態について考えたことはない」という消極的な回答をした企業が多い。

Q (前頁質問で2. 手形貸付(約定弁済付)及び5. 証書貸付とお答え頂いた方について)その理由はなんですか。(複数回答可)

【企業ヒアリング】



【アンケート調査】

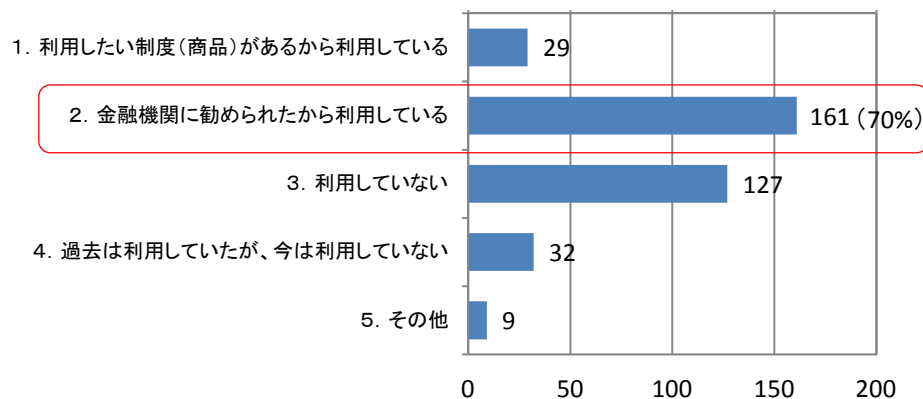


④ 信用保証協会利用の理由

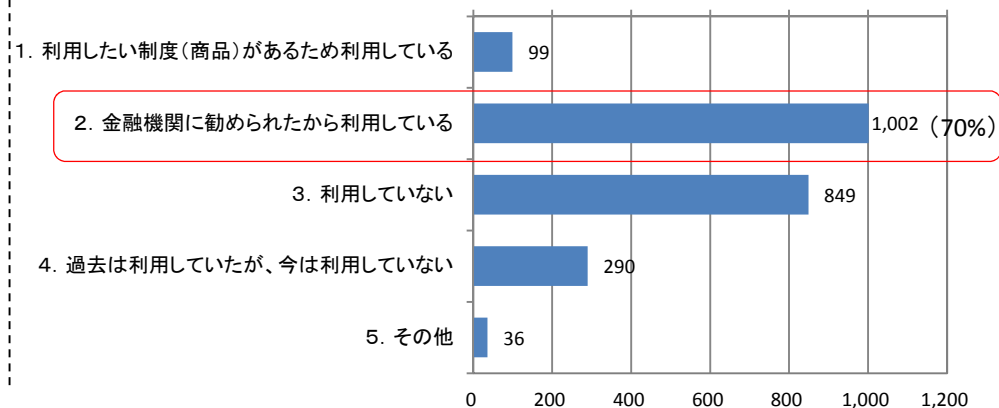
- 信用保証協会を利用している企業の7割が、「金融機関に勧められたから」と回答。
- 信用保証協会の保証を得られなかったことで金融機関から融資を断られた企業が、企業ヒアリング・アンケート調査合わせて118社存在し、そのうちの約5割が「赤字などの理由で資金不足になった時の借入」と回答。

Q 信用保証協会の保証を利用していますか。(利用している理由等)

【企業ヒアリング】



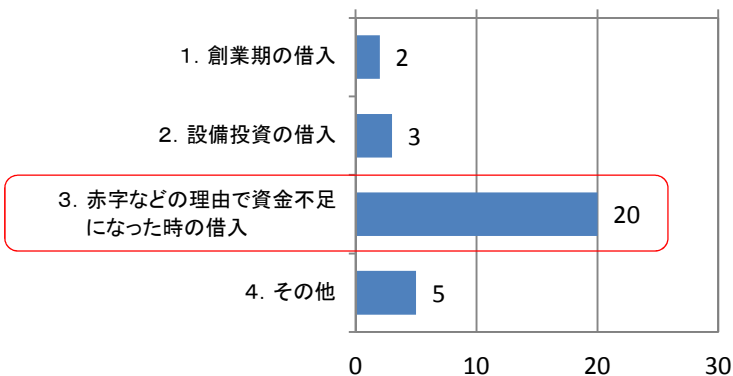
【アンケート調査】



Q 信用保証協会の保証が得られなかったことで、金融機関から融資を断られたことがありますか。また、断られたことがある場合、それはどのような借入れの申込みでしたか。

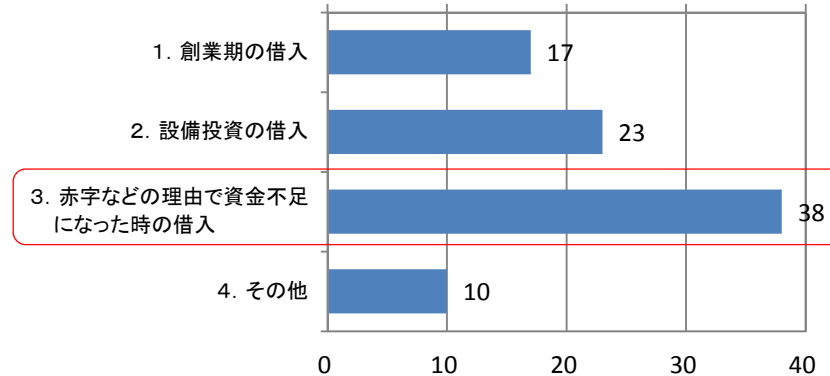
※断られたことがある企業 ⇒ 30社

(理由の内訳)



※断られたことがある企業 ⇒ 88社

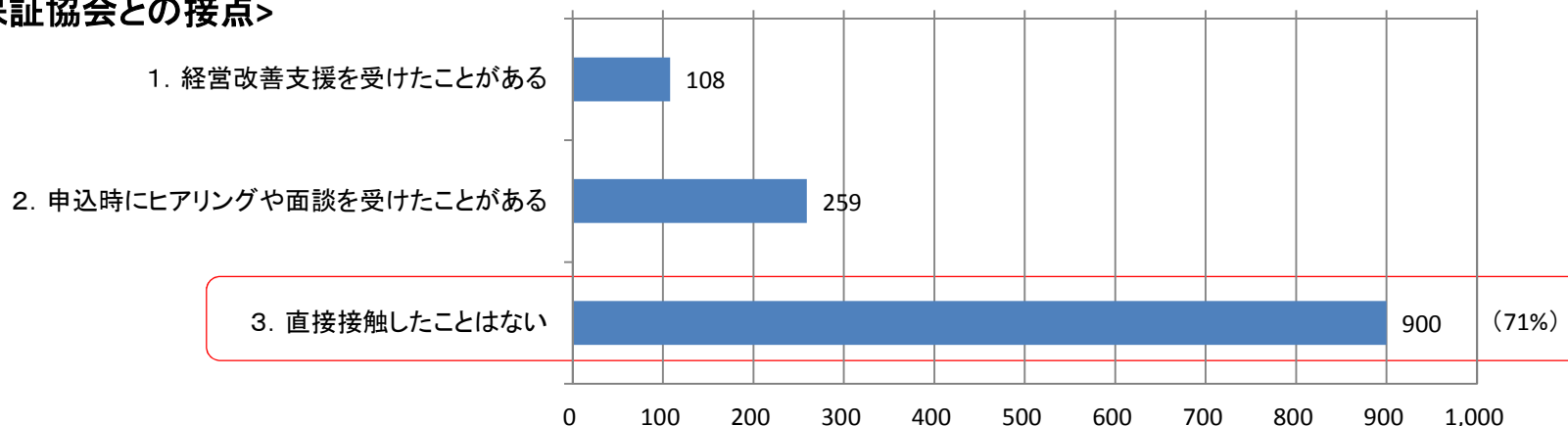
(理由の内訳)



⑤ 小規模企業における信用保証協会との接点(アンケート調査のみ)

- 信用保証協会の保証を受けたことのある企業の約7割が、信用保証協会と「直接接触过したことはない」と回答。
- 企業の信用保証協会に対する期待は、「保証人、担保徴求についての柔軟な対応」、「審査の迅速化」、「手続きの簡素化」が多くなっており、信用保証協会の利用は小規模企業の負担になっていることが伺われる。

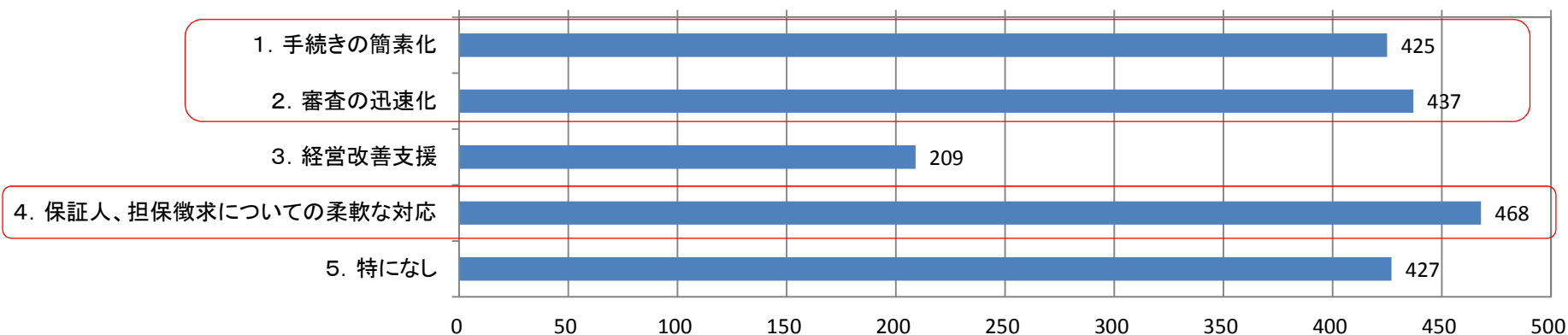
<信用保証協会との接点>



※事業者は、金融機関を経由して信用保証の申し込みを行うことが多いこと等も直接接触过しない要因となっていると考えられる。
 なお、信用保証協会においては、新規の保証先、創業企業、業況悪化が著しい場合等、必要に応じて事業者との面談等を実施している。

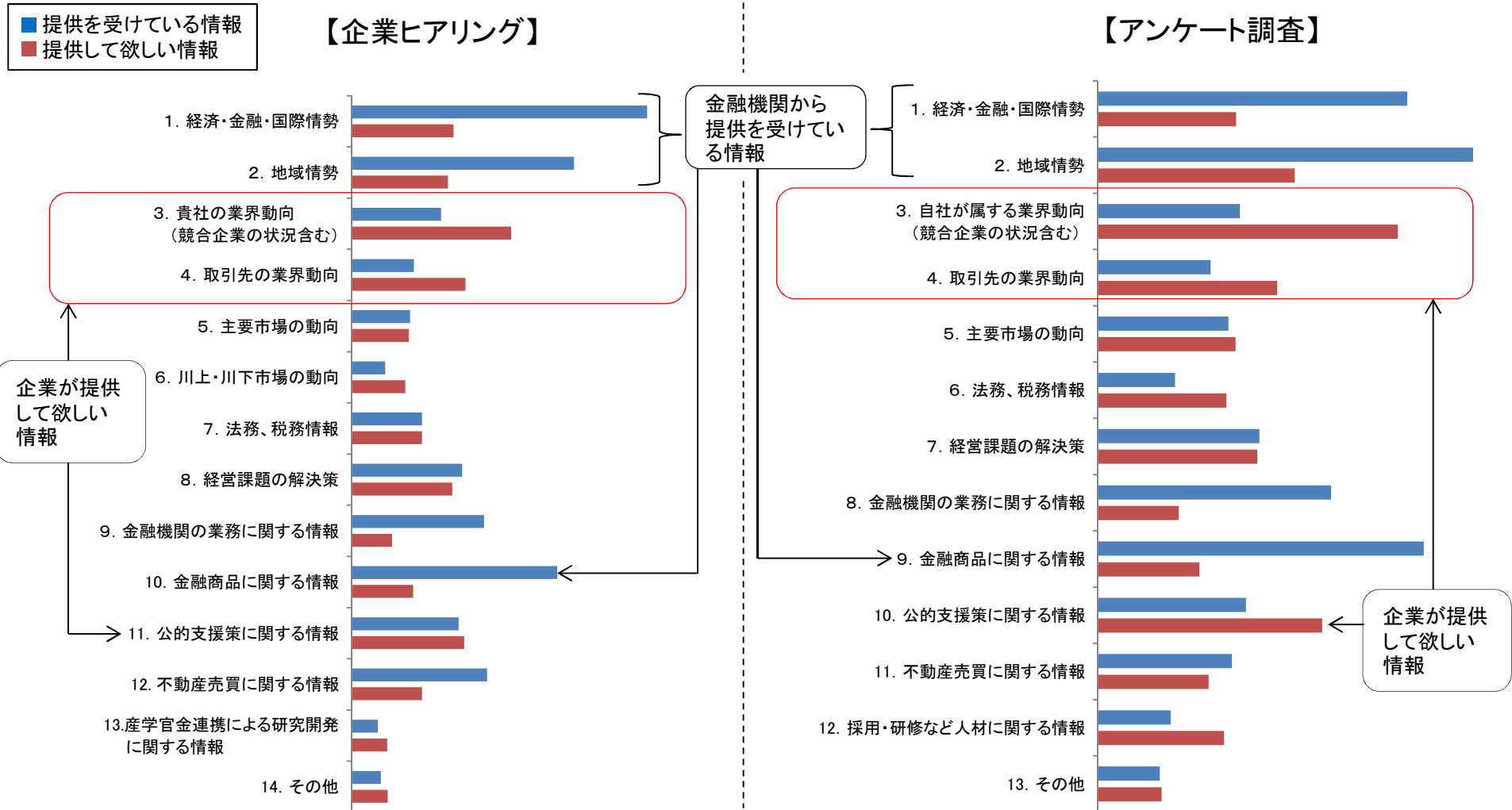
<企業の期待(複数回答可)>

N=1,287



⑥ 情報のギャップ

- 企業が「提供して欲しい情報」と金融機関から実際に「提供を受けている情報」との間には、ギャップが存在。
- 企業は「業界動向」「取引先の業界動向」「公的支援策に関する情報」等、自社の事業に直結する情報を求めているが、金融機関は「経済・金融・国際情勢」等一般的な情報や、「金融商品に関する情報」等プロダクト情報を提供。

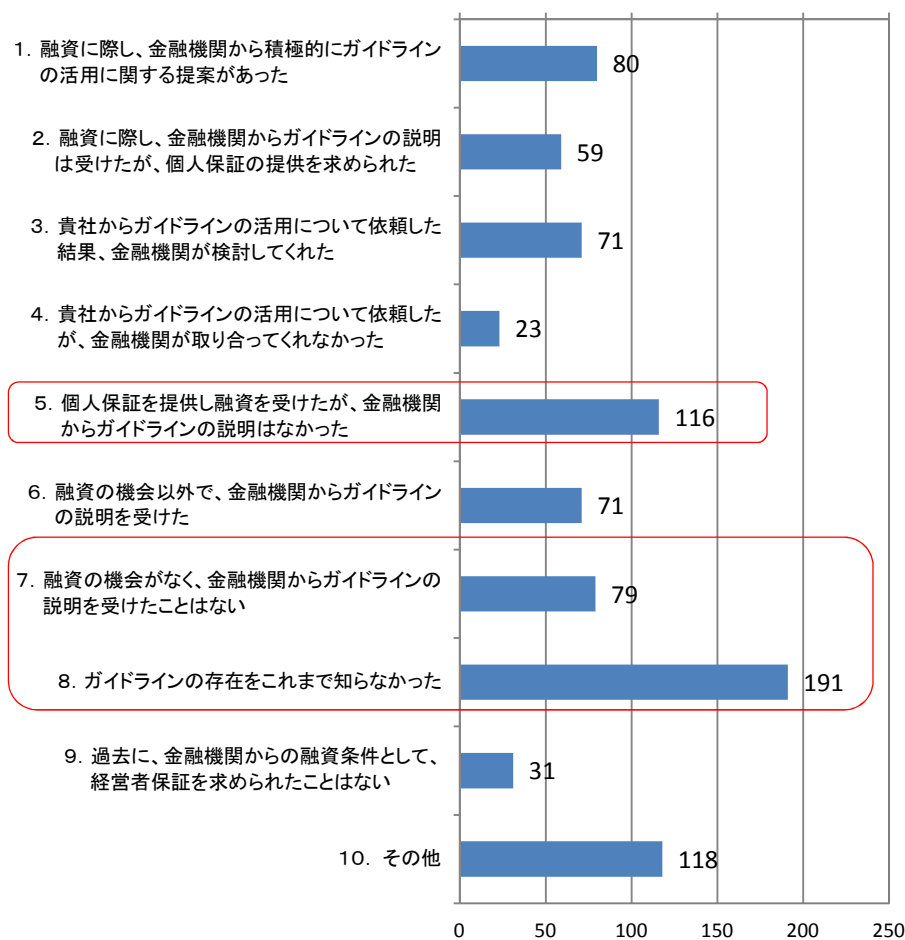


⑦-1 経営者保証ガイドラインの浸透状況

- 経営者保証ガイドラインについて、企業ヒアリングでは、約半数の企業が「知らなかった」「説明がなかった」と回答。
- アンケート調査では、約7割の企業が「知らない」と回答しており、「知っている」と回答した企業の中でも、約3割の企業が「説明がなかった」と回答。経営者保証のガイドラインは、小規模企業ほど「知らない」割合が顕著。

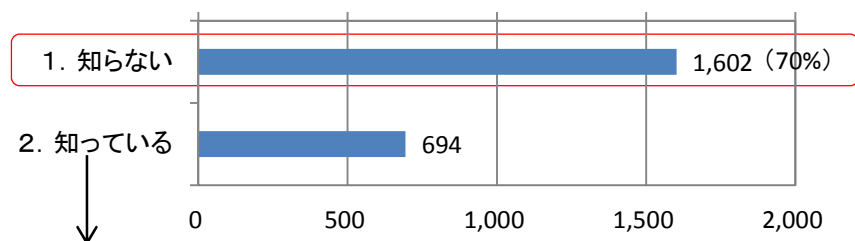
【企業ヒアリング】

Q 「経営者保証に関するガイドライン」の活用について、金融機関の取組み姿勢は如何ですか(複数回答可)。 N=710

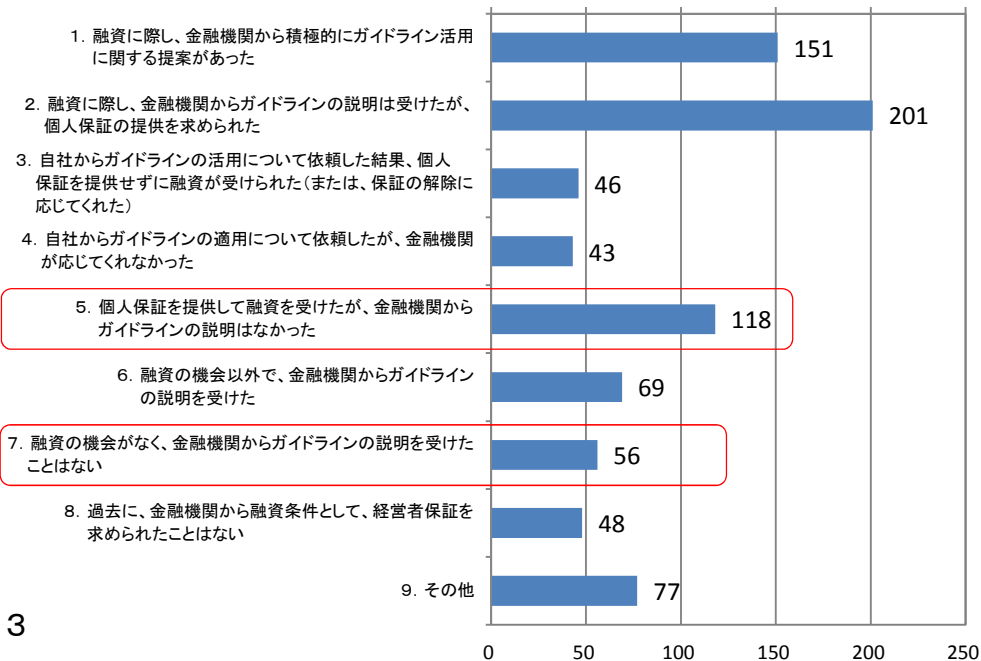


【アンケート調査】

Q 「経営者保証に関するガイドライン」の活用について、ご存知ですか。



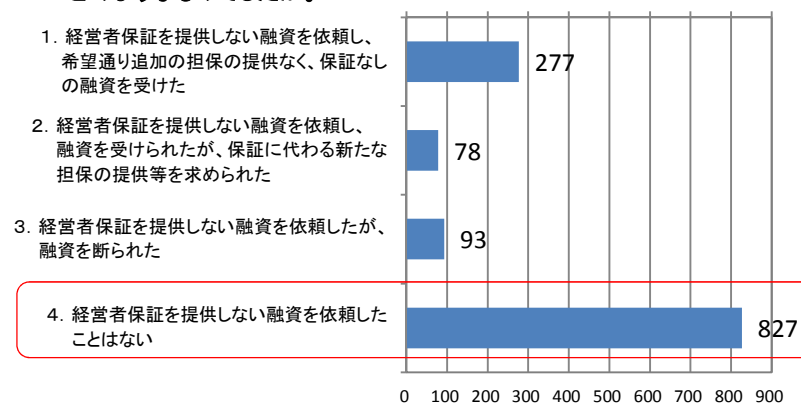
Q 「2. 知っている」を選択した方について、「経営者保証ガイドライン」の活用状況について、金融機関の取組み姿勢はいかがですか。(複数回答可)



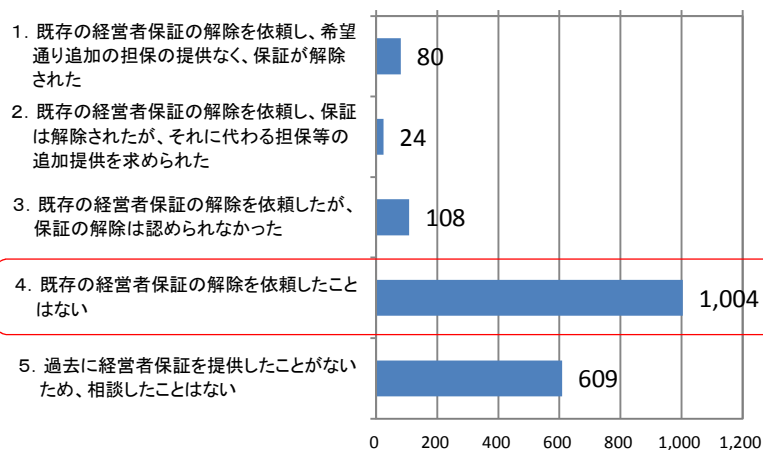
⑦-2 経営者保証ガイドラインの相談状況(アンケート調査のみ)

- 「経営者保証を提供しない融資を依頼したことはない」及び「既存の経営者保証の解除を依頼したことはない」と回答した企業が圧倒的に多い。
- 「依頼したことがない」と回答した企業の約5割が、その理由として「ガイドラインの存在を知らなかったため」と回答。

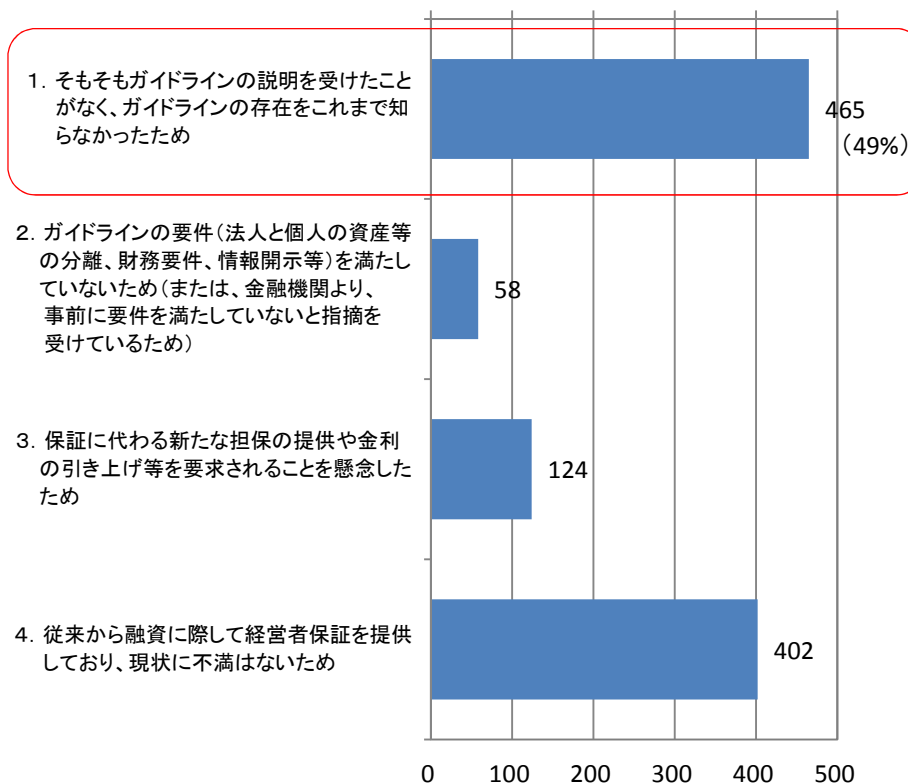
Q 経営者保証を提供しない融資の申込みの際、金融機関の対応はどのようなものでしたか。



Q ガイドラインを踏まえ、既存の経営者保証の解除について、相談したことはありますか。その際の金融機関の対応はどのようなものでしたか。



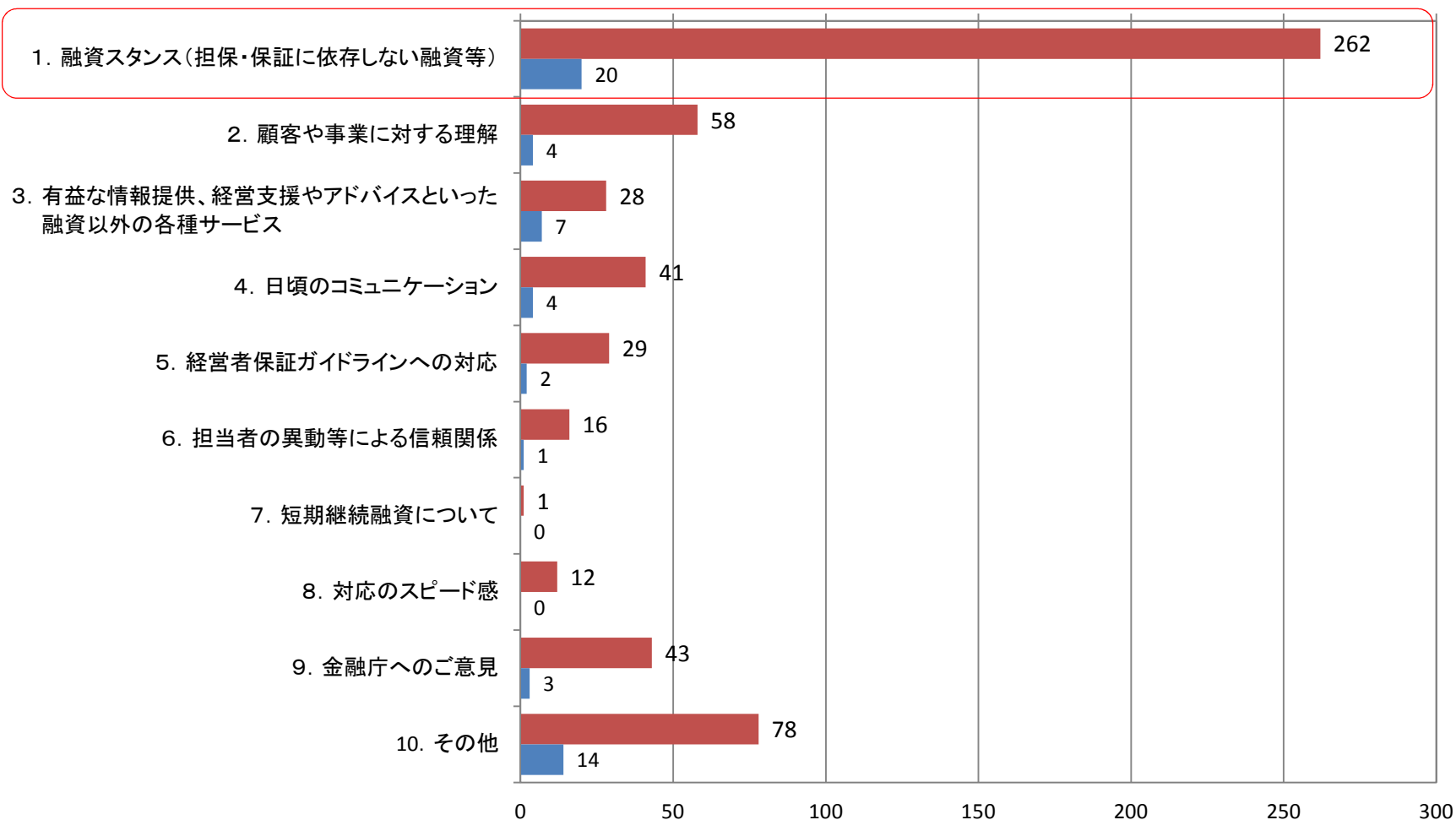
「依頼したことがない」理由(複数回答可) N=946



⑧ 自由意見・要望(定量化)(アンケート調査のみ)

- 各項目ともに厳しい声の方が多い。中でも、融資スタンス(担保・保証に依存しない融資等)に対する厳しい声が圧倒的に多い。

■ 厳しい声(N=385)
■ 評価する声(N=37)



⑨-1 金融機関に対する厳しい声

【企業ヒアリング】

- 銀行や担当者に変化があるとは思えない。金融機関は依然として担保や保証に依存している印象がある。例えば、借入れがなくても、金融機関はいつでも融資できるようにと保証は外さないなど変化はみられない。
- 経営者保証に関するガイドラインについては、自ら新聞報道等で情報を入手し、メインバンクに話をもちかけてみたが、もう少し待ってくれと言われたままで保証は外してもらっていない。当社から話をもちかけなかったら、銀行からガイドラインの説明は一切なかったと思われる。
- 信用保証協会の保証を得られなかったことで、金融機関から、赤字などの理由で資金不足になった時の借入を断られたことがあるが、経営状況が悪く一番支援が必要なきに助けてもらえず、何のための銀行なのかと不信感を抱いた。

【アンケート調査】

- 地域金融機関は頻繁に訪問してくれるが、業界の状況に関する情報に疎く、単なる顔つなぎという印象が強い。一方、政府系金融機関とは最近取引を開始したが、豊富な知識を持っており、職員のスキルも高いため、今後は、メインである地域金融機関から政府系金融機関にシフトしていくことになると思われる。
- 今回のアンケート調査で初めて経営者保証に関するガイドラインの存在を知った。金融機関に相談をしたが、該当条件のチェックリストを作成中とのことだった。迅速に対応、情報提供をしてほしい。
- 銀行側の都合に合わせた融資提案だけでなく、企業が融資を必要とした時には、これまでの実績を十分に考慮した上での、迅速な判断と対応をお願いしたい。
- 短期継続融資をお願いした際、銀行は会社を評価して融資を行うので、これまでどおり証書貸付で対応するとの回答があり、受け付けてくれなかった。

⑨-2 金融機関を評価する声

【企業ヒアリング】

- 現在のメインは、①疑問があれば質問を投げかけ解決すること、②担当者の変更があれば工場見学すること、③引継ぎがしっかりしていること等、積極的に当社を理解する姿勢がみられており、それが当社のニーズを理解し、見合った融資提案に繋がっていると感じている。
- 当社は小規模なため、自社での情報収集に限界があるが、各金融機関がそれぞれの立場で情報を持ってきてくれる。金融機関が業界のことを十分に理解しているとは言い難いが、それでも当社の事業内容や今後の方向性を理解した上でアドバイスや取引先の紹介を行ってくれる。
- 従前は、代表者・専務2名の個人保証を付けていたが、ある銀行が自主的に解除してくれて、追加の担保も不要であった。当社の状況を確認しながら対応してくれたと感じた。判断するのは銀行側だという意識があったため、当社から解除してもらうよう持ちかけたことはなかったが、1年半ほど前から、解除してもらえるケースが徐々に増えた。

【アンケート調査】

- 昨年末に銀行から常駐のコンサルタントを紹介してもらい、3年分の財務データを分析、解析してもらった上で、今後に向けての指針を作成しているところ。本部の企業支援室の副長及び、支店の副長・担当者も加わってもらい、熱心に改善策を練っている。自分の業界のみならず他の業界の状況なども参考にさせてもらえるので感謝している。
- メインバンクとして、苦しい時にはより話を聞いてもらったり、多くの提案をいただいたり、一緒になって進んで来たという思いが強い。
- 自社の事業内容をよく理解していただいているのと地域の老人介護の状況についてもアドバイスをしてくれるのでとても助かっている。
- 金融機関とともに経営改善書を作成し、融資だけでなく、自社の発展に向けた助言をいただいている。